

特集 効率的な病床運用を目指して ベッドコントロールの 目的・実践

Q.月刊こみゅりんくとは？

こりんく開発元(株)プレアデスセブンが主催する
病院経営改善オンライン講座「こみゅりんく」の
内容や、お役立ち情報をまとめた情報誌です。
講座の詳細は裏面に記載しています。

オンライン講座「こみゅりんく」の内容から、
「ベッドコントロールの目的と実践」についてまとめました

①入院患者のスムーズな受け入れ

入院患者を効率よく受入れることは病床管理の最優先事項です。患者の多くが高齢者で、複数の疾患を抱えるケースが多い中、適切な診療科への迅速な振り分けが重要です。

地域連携室を通じて、各診療科や看護部が緊密に連携し、「入院判定会議」を定期的に実施することで、患者の受け入れ体制を強化しなくてはなりません。

情報共有の場を設定し、定例化することで、医療の質を保ちながら迅速な患者対応を実現することができます。

②病床稼働率の向上

病床稼働率の最大化は、病院経営の中核を担う課題です。退院予定患者の動向を日々確認し、空床を効率的に活用する「病床管理会議」の開催が必要です。また、予約入院と緊急入院バランスを保ちながら、平均在院日数を短縮したり、逆に数日伸ばしたりと、退院調整のひと工夫も重要となります。

このプロセスにおいては、データを活用し、患者の動向を正確に把握することで戦略的な意思決定が可能になります。

③DX化による業務効率化

データベース化とDX化の推進は、ベッドコントロールの効率化において重要です。入退院データのデジタル化により、進捗状況の把握や問題点の分析が可能となり、業務の効率化が進みます。

さらに、地域連携室と他機関との情報共有も容易になり、患者フローの円滑化が図ることができます。患者の情報を、法人内や法人外の近隣連携施設と共有する動きも加速していくことでしょう。そうなれば紙での共有には限界があります。今の内から、連携業務の脱Excelを目指しましょう。

ベッドコントロールは、
病院経営と医療提供体制の両面において重要な役割を果たします。

- ・患者受け入れの最適化
- ・病床稼働率の向上
- ・データ活用による効率化

により、病院が地域医療における信頼を高める鍵となります。医療関係者の皆様も、これらの取り組みを参考に、患者中心の医療提供体制の構築を目指しましょう。

地域連携強化と稼働UPを
目指す経営改善コミュニティ

こみゅりんく

稼働率UP

地域連携強化

働き方改革

講座参加者の声

Aさん | 法人本部 連携推進担当

データ集約による院内&院外との情報共有についてやるべき事が明確になりました。特に入退院経路分析では、相談件数に対してキャンセル件数の把握ができていないことに気づかされました。いろいろなデータがある中で、いかに必要なデータを統合して、検討・理解・共有することが大切なのかを学びました。

Bさん | 副看護部長 入退院支援室

必要な情報収集とデーター分析することで課題が明確になり、解決の糸口が見え、アプローチの方法を学習できました。連携先アンケートなどもあり成果報告会までの時間が短く、通常業務との進行が厳しいと感じましたが、講義内容に関しては回を追うごとに楽しくなりました。ありがとうございました。

Cさん | 連携室 ソーシャルワーカー

連携室の仕事を可視化すること、情報収集しデータ化することの大切さを学びました。業務フロー図を作成していなかったもので、雛形を頂き作成するきっかけとなりました。当院ではベッドコントロール担当看護師と一緒に参加できたのが良かったです。講座は、連携室職員だけでなく、経営層と一緒に参加したほうが良いと感じました。



2025年4月8日から始まる第6期は

火曜日開催です

日程 第6期 2025年4月8日(火)～

回数 全5回

方法 オンライン 

費用 無料

資料と申込は [こちら](#)



人口減少、病床機能の変革…
これからの地域ヘルスケア戦略
を明確にして
連携先から愛される
地域No1病院を目指し
データに基づく戦術を学びます。

経営改善の実践的ノウハウを学ぶ“こみゅりんく”で次の一手を！